

令和8年5月26日 会頭記者会見 発言要旨

■京都経済の現状について

京都の上場企業の決算状況が概ね出揃いました。さまざまな外的要因があった中ではありますが、全体としては堅調であったと受け止めております。とりわけ電子部品や半導体関連では、世界的なAI需要を背景に最高益の更新や売上・利益の上方修正など、力強さが際立ちました。

一方で、消費の伸び悩みやコスト上昇の影響を受けた企業もあります。飲食、アパレルのほか、比較的消費者に近い領域で事業を営む企業で減収や減益が見られ、また半導体関連でも、AI需要を取り込めた企業とそうでない企業の間で差が生じるなど、業種や企業の立ち位置によって明暗が分かれる結果となりました。

さらに今期の見通しについては、イラン情勢をはじめとする不透明な国際情勢の影響もあり、慎重な姿勢を取る企業が多く、先行きの不確実性が一段と高まっていると認識しております。

こうした中、本所が実施した「中東情勢に伴う原材料・エネルギー供給影響に関する緊急調査」、こちらは前回4月の会見で速報値をお伝えしましたとおり、原材料や油脂類の不足への懸念、さらには事業継続への不安といった声が中小企業や小規模事業者を中心に数多く寄せられました。

また、エネルギー価格の抑制や直接的な負担軽減にかかる支援、資金繰り対策、さらには価格転嫁に向けた環境整備を求める声が企業から挙がっております。

その一方で、厳しい環境を新たな成長の契機と捉える動きも出てきております。本所のイノベーション・新産業創造委員会において、今回の調査結果を踏まえた議論を行ったところ、資材や素材の見直しや、高付加価値化に向けた製品・サービスへの転換など、前向きな取り組みが報告されました。

こうした変化への対応は、京都企業、ひいては日本経済全体の競争力向上に直結すると考えています。中小企業・小規模事業者にとっても新たな価値創出に向けた重要なチャンスです。本所としては、こうした機会を確かな成長の契機につなげられるよう、資金面、経営面の両面から伴走支援を強化してまいります。

■「100円朝食プロジェクト」について

本所では、会員企業と学生の新たな接点づくりを目的に「100円朝食プロジェクト」を実施いたします。

この事業は、大学の講義前の時間帯に学生に集まっただき、朝食の提供とあわせて、会員企業が仕事内容や自社の強みを紹介し、リラックスした雰囲気の中で交流を行うものです。学生の皆様には、100円でしっかりと朝食を摂ってもらいながら、京都企業と出会う新しい接点を提供します。

京都は「学生のまち」ですが、大学卒業後に京都に残る学生は17%を下回っており、多くの若者が首都圏などへ流出しています。これは京都にとって大きな損失です。

企業情報がインターネットから手軽に得られるようになり、企業からは学内での企業説明会を開催してもなかなか学生が集まらないという声が増えています。一方で、学生の側からもウェブの情報だけではわからない会社の雰囲気や社風を知りたいという声があり、よりフランクな交

流へのニーズも高まっています。

こうした背景から、本所若手職員のワーキンググループにより、本事業を企画しました。第1回は7月2日に、包括連携協定先である京都外国語大学で開催し、15名から20名程度の学生を対象に、会員企業2社が参加する予定です。

本事業は年度内に3回程度、複数の大学での開催を考えております。一企業では学生にアプローチできる機会が少ない中小企業の魅力を伝え、学生に「京都で働く」ことをイメージしてもらえよう、取り組んでまいります。

■京都経済ほんまもん大賞 募集開始について

3月の会見で発表しました新たな顕彰制度「京都経済ほんまもん大賞」につきまして、本日より募集を開始しましたことをご報告いたします。

本事業は本所と京都経営者協会、京都経済同友会、京都工業会の4団体が連携し、「変革と挑戦」を重ねることで世界に通じる唯一無二の価値を創造し続けている中堅・中小企業にフォーカスを当て、その取り組みを積極的に支援・発信していくことを目的としています。

大賞と特別賞を予定しており、受賞特典として賞金総額300万円のほか、主催団体のネットワークを通じて、プレゼンテーション機会の提供や広報支援を行ってまいります。

締切りは8月20日17時です。その後、審査を行い、来年の年明け以降に表彰式を予定しています。

今回が記念すべきスタートとなります。本所といたしましても、今後の展開につながる重要な第一歩と捉えており、全国、そして世界に誇れる企業からの意欲的なご応募をお待ちしております。